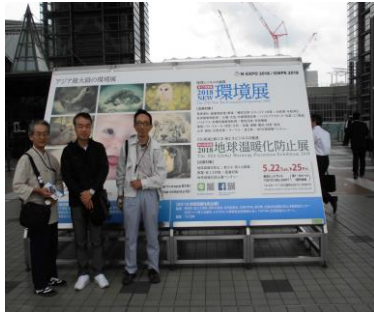


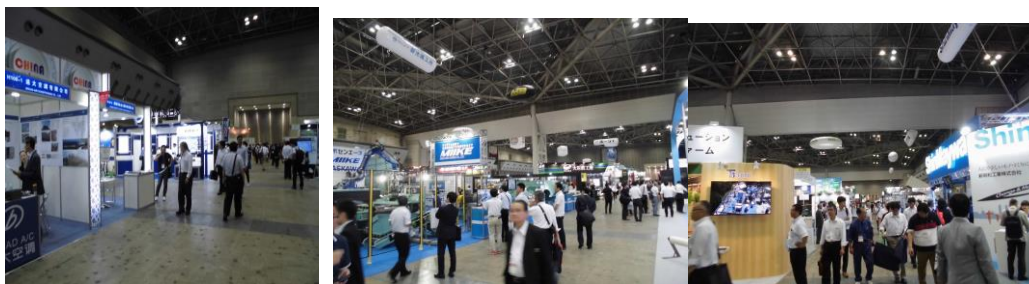
第10回開催 地球温暖化防止展 第27回開催 環境展

2018/05/23~25

グリーン北杜の代表者が、会場に行っていました。



理事会に、有志の呼びかけを行い、参加者（自費）を募りましたが、当日は、4名の参加になりました。地球温暖化防止展と環境展の会場は広くて、1日で回るのは少々無理があり、できればゆっくりと時間を掛けて見るべきところが多く存在していたように思えました。（会場でさらに1名メンバー発見）



今や、環境問題は、日本だけの問題ではなく、改めて、世界問題である事をこの会場で、認識を新たにいたしました。特に昨年と変わっていたのが、海外からの出展ブースが多いことと、官民一体政策として、各大学の自立化が求められている中、高専の発表ブースが優秀であり、それに勝るかのように各地方大学のブースがあり、日本の将来の構図、人材こそが宝であるが読み取れました。

特に注意を引いたのが、世界各国が日本のエネルギー政策に否定的な論評があり、日本のエネルギー政策のガラバゴス化を示唆していたことです。

特に、電気エネルギーを生産する過程で、二酸化炭素の排出利用の多い日本に対して、課徴金制度と燃料輸出制限を示唆するものがあったことです。

今回の目玉は、リサイクルと自然エネルギーの利用方法に関するものが、多く見られ、廃棄物業界への機械化と省エネ化や効率化、環境に優しい機器の発表など、今まで中で、身近に感じるものが多く、衛生面や生活環境に重視したブ

ースが多く、地球温暖化が、いよいよ身近に迫って来ているのを感じさせるもの
が多く、東京オリンピックに視点を合わせたものや、エコパークや世界遺産の維
持や運営に欠くことのできない発表もあり、盛り沢山でした。

会場には、グリー北杜の会員でもある「日本小水力発電株式会社」



のブースも、北杜市から唯一出展しており、その技術力と設置事例が発表されて
おり、多くの自治体や企業、農業改良区等の熱い視線を集めておりました。

また、自然エネルギー利用を紹介するブースの中には、太陽電池に対するブース
もあり、その中で特に目を引いたのが、太陽電池の「リユース」と「リサイクル」
部門で、太陽電池の100%の物理的リサイクルシステムが構築され稼働。



写真のように分別回収され、リサイクルされていることが紹介されていました。
太陽電池パネル一枚あたりの処理単価は、現在では 3,000 円程度ですが、これ
を半額の 1,500 円位までに、価格を低くするのが、現在の目標だと言っておら
れました。